

④6 長井市役所新庁舎整備事業

受賞機関 長井市

キーワード 鉄道駅と一体となった市役所の新庁舎、山形鉄道フラワー長井線、鉄道事業の上下分離方式、防災拠点

全建賞審査委員会の評価ポイント

鉄道駅と一体となった市役所の新庁舎整備事業。鉄道用地という地歴を活かしつつ、市の歴史ある近代洋風建築の意匠を踏襲することで良好な景観形成を実現するとともに、全国で初めて市役所を地域交通の拠点となる駅と一体化することにより、利便性の向上や賑わいを創出し、地域の活性化に寄与している点が評価された。

1. はじめに

長井市は、市内を南北に走る山形鉄道フラワー長井線と、同じく南北に流れる最上川に沿って延びる一般国道287号との間に中心市街地が形成されている。

本市では、庁舎機能が市内各地に分散していたため住民の利便性や業務効率が悪く、旧本庁舎は築60年以上で老朽化が著しい上に洪水浸水想定区域に位置し、防災拠点としての機能と性能が不足しているなど、多くの課題を抱えていた。

一方、フラワー長井線の長井駅周辺は、旧本庁舎敷地より標高が約4m高く、洪水浸水想定区域外であり、また、平成28年度から鉄道事業の上下分離方式を導入していたため市有地であった。

2. 事業の概要

建設地は、防災拠点としての安全性、住民の利便性などの視点から、市中心部にあつて洪水浸水想定区域でない長井駅周辺に決まった。前述のとおり、市有地であるため、用地取得に係る時間と費用を大幅に縮減できるというメリットも得られた。



庁舎全景（左：市役所、右：まちなか交流施設）

新庁舎整備に当たり、それまでの課題の解消に加え、地域交通の拠点となる駅と一体化し、来庁者だけでなく、駅に立ち寄る人なども行き交う空間を演出するとともに、景観も考慮し、単なる市役所ではない魅力ある庁舎を目指し、令和元年7月に着工した。鉄軌道敷地と民地に挟

まれた建設現場では、鉄道の利用者や運行の安全確保を最優先に、大型重機の配置場所や運搬車両経路、機械式継手と鉄筋先組工法の組合せなど工夫を重ね、令和3年3月に完成した。

線路に沿った敷地のため、全長約170mと長い建物形状で、市役所部分は舟運文化で栄えた姿を今に伝える歴史ある商家建築の縦格子をイメージした意匠とし、駅を含むまちなか交流施設部分には、近代洋風建築物をモチーフに、窓や屋根に柔らかな曲線を採用するなど、長井らしさを表現した。SRC造のため、内部は柱や間仕切りが少なく、端から端まで見通しが良い。まちなか交流施設の1階は、吹き抜けで明るく開放感あるホールである。

3. 事業の成果

庁舎機能を集約した新庁舎は、利便性が高まり、防災倉庫も備えた市民の安全と安心を守る防災拠点としての役割も担う、まちなかの都市機能の核となる施設として生まれ変わった。

駅のコンコースも兼ねたまちなか交流施設は、午前5時30分から午後9時45分まで利用できるため、憩いの場、イベントスペースとして親しまれているほか、夕方からは、勉強など自分の時間を過ごす中高生の姿も見られる。

新庁舎前でもイベントが行われ、賑わいづくりに一役買っている。



新庁舎前ではイベントも行われる

4. おわりに

今年9月には、新庁舎の隣に、屋内遊戯場のある子育て世代活動支援センターと図書館を合築した「長井市遊びと学びの交流施設くるんと」がオープンする。都市機能と公共交通の核となる新庁舎に加え、くるんとの誕生により、人の流れが生まれ、元気に賑わう中心市街地の未来を拓く。

賛助会員 戸田建設(株)、那須建設(株)、大泉建設(株)